

No.
05

ELPA Vision

スピーキング力につなげる音読指導

飯野 厚（法政大学教授）

英語の土台作りの新提案

『聞く・話す・書く 英語の語順トレーニング』 の活用例

埼玉県立朝霞西高等学校
作新学院高等学校（栃木県）
福島県立平商業高等学校

特定非営利活動法人（NPO）

ELPA
英語運用能力評価協会

〒102-0074 東京都千代田区九段南4-3-4 大江ビル1階

TEL：03-3230-0571 FAX：03-3230-0572

<http://npo-elpa.org> elpa@english-assessment.org

スピーキング力につなげる音読指導

飯野 厚（法政大学教授）



近い将来の大学入試改革案が迷走する中、4技能重視の方向性は維持されているようです。小学校から高等学校までの英語教育現場にとって、4技能全体をどのように育成するのは大きな課題と言えます。とりわけスピーキング力の養成は大きな課題と思われます。私は、音読とシャドーイングが現場の実態と改革の理想をつなぐ実行可能な指導技術ではないかと考えています。ただし、音読を生かすにはリスニングや対話活動が指導に多く取り入れられているかどうかが前提条件になります。

音読がスピーキングに効果があるのかどうか、実は研究上ははっきりと証明されていません。その理由は、学習者要因、音読の目的などの条件の組み合わせがいろいろだからです。しかし、指導上はリスニングの熟達度とコミュニケーション機会の量という2条件の組み合わせに応じて、教師が適切な介入を図ることでスピーキングへの効果は望めると考えています。以下は私の仮説です(右上の図参照)。

音声学の理論である発話学習モデル (Speech Learning Model, Flege, 1995) に基づいて考えると、リスニング力が高い学習者は、発する英語の理解可能性 (comprehensibility) を支える英語のコアとなる音韻的特性が記憶に定着している状態にあり、発話にも転換しやすい状態となります。図の◎の部分のように、コミュニケーションの機会が多い場合、音読したフレーズや表現などがコミュニケーション場面で取り入れられ、理解される英語として学習者のレパートリーに加わるものと思われます。もしも、リスニング力が熟達した学習者に話す機会をあまり与えないで音読を要求するならば(表右の○)、音読のあとに対話タスクを用意するなどして、話す機会を増やし(←)、目的意識を高めることで効果は◎になります。

リスニング力が十分に発達していない学習者に対して、英語で話す機会と音読の際に英語のモデル音声を提供することで、実践環境と練習環境が整うことになります(図中左側○)。同様に、△の組み合わせも、×の組み合わせも、コミュニ

〈音読がスピーキングに及ぼす効果〉

			コミュニケーションの機会	
			多	少
リスニング力	高		◎	← ○
	低	モデル音有	○	← △
		モデル音無	↑ △	← ×

◎＝効果最大、○＝効果大、△＝効果あり、×＝効果薄

ケーションの機会を増やし、モデル音声を活用して音声への意識を高める指導をすることで効果は○になります。

現実的には、ほとんどの日本人英語学習者はリスニング力が十分にあるとは言えません。リスニング力を育成する観点から音読とスピーキングの関係を考えるとき、文字テキストを介在する音読は元の音声の特性に注意が向きづらいという弱点があります。

そこで、シャドーイングを音読の前後に取り入れることで、音読をさらに「有効化」できるものと思われま。シャドーイングは文字への依存を断ち切って、限られた時間で音声だけを頼りに発話再生する活動です。音声に注意が向き、理解可能な音韻的特性を耳（リスニング）と口（スピーキング）で体得することができます。英語の音響イメージができてくると音読の質も上がり、ひいてはスピーキングに転移しやすくなります。

ここまで、音声理論に依拠しながら音読がいかにスピーキングに効果をもたらすことができるか

を議論しました。お気づきかと思いますが、音読だけではなくモデル音声の活用、コミュニケーション活動による動機づけ、リスニングと発話を精緻化するためのシャドーイングといった多様な音声指導が絡み合いながら効果が生まれるという図式です。

大学入試改革から改めて現場に突き付けられた4技能重視、とりわけ課題となるスピーキング力の養成について、われわれ英語教師はあらゆる指導技術を駆使して活動を組み立て、デザインすることで実現できるのではないかと考えています。

飯野 厚（法政大学経済学部教授）

18年間にわたる埼玉県公立高校教諭を経て、2005年より清泉女学院短期大学で教壇に立つ。2009年より現職。

『My Way English Communication』（三省堂）著者

『聞く・話す・書く 英語の英語の語順トレーニング』（ELPA）監修者

『英語の語順トレーニング』の活用例①

埼玉県立朝霞西高等学校

茂木 恵美子 先生



1979 年創立の埼玉県立朝霞西高等学校は、地元の朝霞だけでなく、所沢や南浦和など幅広い地域から生徒が通う共学校である。今回は 1 年生ご担当の茂木恵美子先生にお話を伺った。

中学英語の土台がなければ、 高校英語は理解できない

茂木先生が教材を導入しようと思ったきっかけは、中学英語の基礎が身につけていない生徒がいるという危機感からだった。

「昨年度、校内で課題テストを実施しました。その採点をしていたときに、否定文や疑問文といった基礎的な語順を理解していない生徒がいることに気がつきました。「3 単現の s」や「複数形の s」も、あやふやな生徒がいました。つまり、中学英語の基礎が定着していないということです。高校英語では複雑な構文なども出てきますが、それ以前の基礎を身につけていなければ、砂上の楼閣です。ですから、生徒たちの基礎力定着のために何をしたらよいのか、日々悩んでいました。そうしたときに大宮ソニックシティで開催された研修会に参加し、『英語の語順トレーニング』の存在を知りました。この教材であ

れば、5 文型という初歩の初歩から、しっかり中学英語の基本が身につくのではないかと思ったのです」(茂木先生)

手作りプリントで生徒の理解度をチェック

1 学期に『英語の語順トレーニング』の Lesson 8 まで終えたという茂木先生。教材に連動した課題として手作りのプリントを生徒に配布し、理解度を適宜チェックしている。

「まず、『週末課題プリント』として、テキストに出てくるキーセンテンスを声に出しながら 10 回ずつ書きましょう、という宿題を出しています。このプリントは提出してもらいます。油断して忘れた生徒には、もう一枚渡し、必ず提出してもらうようにします。そして、週明けに『週末課題テスト』を行っています。これはテキストのキーセンテンスをそのまま抜粋したもので、7 割取れば合格です。不合格の生徒には、もう一枚プリントを追加で渡します」(茂木先生)

教材を通じて生徒の弱点が見えてきた

教材と独自の「課題テスト」を併用することで、中

学英語の中でも、特に生徒が苦手とするポイントが明らかになったという。

「たとえば Lesson 8 は〈S + V + O + O〉という、2つの目的語がくる第4文型がテーマになっていて、My friend gave me this ring. というキーセンテンスが出てきます。この文の gave me this ring のところを少し変えた英作文テストを中間テストで出して

みたところ、そのちょっとした変更だけで解けない生徒が出てきました」と、茂木先生は語る。

今までは『英語の語順トレーニング』の本冊のみの使用であったが、生徒のさらなる基礎力定着のために、今後は『英語の語順トレーニング』に含まれる「Check Test」を授業で取り入れることも計画中である。

『英語の語順トレーニング』の活用例②

栃木県 作新学院高等学校

大島 勇 先生

漆原 七海 先生

一昨年、創立 130 年を迎えた作新学院高等学校は、栃木県内の私学でトップクラスの進学実績を誇る学校である。広大なキャンパスに多彩な学習施設がそろっている同校では、英語の授業においてもコンピューターを活用して指導にあたっている。今回は『英語の語順トレーニング』と連動した「音声認識・ディクテーションソフト」を活用していただいている、3 年生ご担当の漆原七海先生にお話を伺った。

「話す」トレーニングができる教材を探していた

漆原先生が『英語の語順トレーニング』を採用するに至った決定打は、その「スピーキング」練習にあるという。

「今までは『リスニング』だけの教材が多かったの



ですが、そうではなくて、『話す』トレーニングができる教材を探していました。今、ICT を使った英語教育が叫ばれるようになりましたが、ちょうど本校でも『作新アカデミア・ラボ』という施設ができて、ICT を使ったプロジェクトが動き始めました。『英語の語順トレーニング』は週 1 回、放課後の授業で使っています。座学とコンピューター室での学習を交互に行っており、座学の時間に教材付属の Check Test を行っています」（漆原先生）

英語ならではの「音のつながり」ととまどう生徒

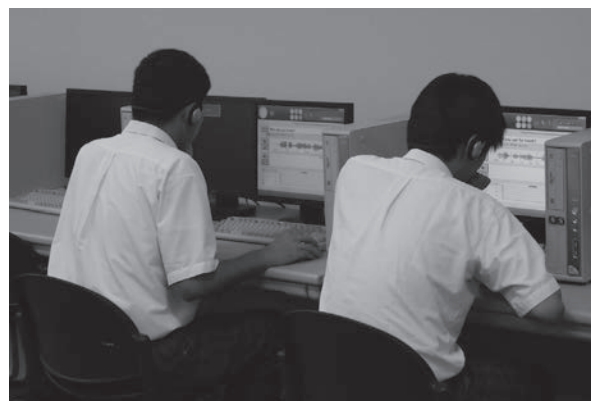
教材付属の Check Test では、本冊で学んだキーセンテンスの復習問題（Q1）や会話文の聞き取り問題（Q2）、さらにキーセンテンスを応用した英作文問題

(Q3) が出題される。Check Test を実施することで、生徒が「音のつながり」を苦手とすることが明らかになった。

「Check Test を行くと、本冊のキーセンテンスをそのまま問う Q1 はみんなほぼ解答できるのです。ですが、Q2 と Q3 が生徒にとっては難しい。音がつながっているのに、Q2 の会話文を聞き取れないわけです。答え合わせをして、「ここはこういうふうに発音する」ということを解説すると生徒は納得してくれるのですが、まだ英語の音声に耳が慣れていない。それはリスニング問題だけでなく、教科書の音読でも同様です。単語一つ一つを読むのは上手。ですが、彼らは「英文」というよりも、単語と単語をくっつけて文にするという感覚でいるのです。このままでは、ネイティブ・スピーカーと会話したときに通じるかという問題があるわけです」(漆原先生)

発音を評価されるのが 「うれしい」という感覚

本冊と連動した「音声認識・ディクテーションソフト」を導入したところ、生徒の学ぶ姿勢に明らかな変化が見られるようになったという。



「コンピューターに向かって話して、自分が発音したことに対する評価が出るのが生徒は楽しいようです。Good や Excellent などの評価が出てくるのが楽しくて、生徒は取り組んでいます。よい評価が出ると、私のことを呼んで、「見て、見て!」と声をかける生徒もいるぐらいです。『英語の語順トレーニング』の教材としてのよさは、ソフトがあるからこそ、だと実感しました。自分の発音を評価してもらえるのが、生徒は楽しみなのです」と漆原先生は語る。

未来型の学習施設「アカデミア・ラボ」が完成し、今後ますますアクティブ・ラーニング型の学習を促進する作新学院。「リスニング教材」とは一線を画す「音声認識・ディクテーションソフト」がその未来型の学習の一助となれば幸いである。

4 技能型
対応

英語の土台づくりの新提案

聞く・話す・書く

英語の語順トレーニング Level 2

徹底したリスニング、音読、ディクテーションの
くり返して、文のしくみを理解する

教師用
小テスト付

発音トレーニング
プログラム付

定価 864 円 (800 円 + 税)

監修 飯野厚 (法政大学教授)

聞く・話す・書く
英語の語順
トレーニング
Level 2

監修 飯野厚 (法政大学教授)

ELPA

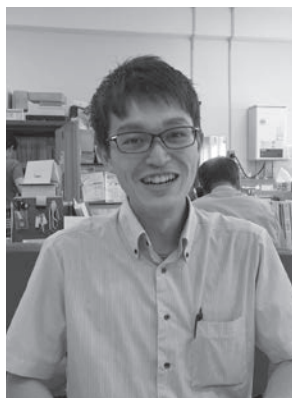
- ① 本冊 (B5 版 56 ページ Lesson20 回分 + Mix Training 5 回分)
- ② 解答・解説書
- ③ Check Test + 確認テスト (教師用 / PDF テキストファイル付)
- ④ 教師用音声 CD×3 枚 (本冊用 CD×2 枚、Check Test + 確認テスト用 CD×1 枚)
- ⑤ 音声認識・ディクテーションソフト (Windows 用 / 本冊 40 冊以上採用ごとに 1 ライセンス / 1 年間有効)

ELPA Association for
English Language
Proficiency Assessment

『英語の語順トレーニング』の活用例③

福島県立平商業高等学校

菅家 稜平 先生



福島県いわき市にある平商業高等学校は、1913年創立の100年を超える歴史を誇る学校である。現在は流通ビジネス科、情報システム科、オフィス会計科からなり、一学年の生徒数は合計約200名である。『英語の語順トレーニング』を採用していただいた、1年生ご担当の菅家稜平先生にお話を伺った。

高校英語の前に、中学英語の定着を

「中学英語の基礎を定着させたい」という狙いがあったて、菅家先生は6月末に教材を導入したという。

「英語を苦手とする生徒が多くいるものですから、いきなり高校英語から入ることは難しいわけです。品詞や文の基本的な並べ方がわからない子が多い。ですから、教科書と並行して『英語の語順トレーニング』に取り組み、中学校の基礎を定着させることができたかと思いました」（菅家先生）

生徒を混乱させない取り組み

同校では、授業では教科書学習に専念し、余った時間を活用してパソコン教室で「音声認識・ディクテーションソフト」を使って学習する、というメリハリのある使い方をしているという。

「教科書で学習する際に、別の教材を同時に使うと生徒が混乱してしまいます。そこで、私たちの学校では、基本的に授業では教科書の内容を進めることをメインとしています。しかし、教科書が速く進ん

で時間が余るときがあります。そうしたときに、パソコンが使える教室に行き、『英語の語順トレーニング』の教材を使うようにしています。さらに、教材が区切りの良いところまで終わって時間が余ったら、グーグルの音声検索を活用した発音チェックをしています。生徒たちの発音した単語をグーグルがきちんと認識してくれるか、単語一つずつチェックしています」（菅家先生）

英文を「固まり」で捉えられるように一步一步

グーグル音声検索で英文単位でなく、単語一つずつをチェックするには理由があった。

「生徒は、英文をスラスラと読むことができないのが現状です。ですから、一つの単語がちゃんと認識されたら、次の単語に移る、というふうに取り組んでいます。加えて、月に1、2回ですが、『クラウン チャンクで英単語』（三省堂）を使って単語テストを実施しています」と菅家先生。

チャンクで覚えたほうが、生徒の記憶にも残りやすい。同校では、単語一つ一つの発音チェックやチャンク単位の英単語テストを重ねることで、生徒の基礎力の定着を図っている。パソコンルームを使った授業を行うのは不定期であるが、6月末に教材を始めてから、現在 Lesson 4 まで進んだという。単語一つ一つにまで至る、丁寧な指導の積み重ねが今後花開くのであろう。

ELPA 2017 年度英語教育セミナー

『基礎英語力定着を目指して～授業改善の取り組み～』

	日時	会場	講師
2017 年	11 月 12 日 (日)	石川：金沢勤労者プラザ	根岸雅史・大坪克哉 (石川県立七尾高等学校教諭)
	12 月 16 日 (土)	兵庫：三宮コンベンションセンター	金谷 憲・本多綾子 (埼玉県立熊谷西高等学校教諭)
2018 年	1 月 21 日 (日)	東京：研究社 英語センタービル	金谷 憲・根岸雅史

開催時間 13:30～17:00

定員 50 名 〈主な対象〉中学校・高等学校の先生方、教育関係者

参加費 一般 2,000 円 / ELPA 会員は無料

『英語の語順トレーニングと音声教育 ～4 技能の向上を見据えて～』

	日時	会場	定員
2017 年	12 月 23 日 (土)	愛知：ウインクあいち 10 階 1008 会議室	40 名
2018 年	2 月 3 日 (土)	福岡：リファレンス駅東ビル 3 階 H-1 会議室	60 名

開催時間 14:00～17:00

対象 中学校・高等学校の先生

講師 飯野 厚 (法政大学教授)

参加費 無料

小学校英語教育セミナー & シンポジウム 2018

『小学校における英語教科化のポイント： より良いスタートを切るために』

開催日時 2018 年 1 月 27 日 (土) 13:30～17:00

会場 イオンコンパス大阪駅前会議室 RoomA

定員 50 名 〈主な対象〉小学校・中学校の先生方、教育委員会

参加費 一般 1,000 円 / ELPA 会員は無料

〈講演〉
竹内 理 (関西大学教授)

〈シンポジウム〉
中西 浩一
引山 大士
池本 淳子
竹内 理

表紙について：錦帯橋 (山口県岩国市)

度重なる橋の流出のために、様々な工夫の結果江戸時代前期に掛けられた錦帯橋。300 年近く無事でしたが、1950 年に襲来した台風によって流出しました。この素晴らしい橋を残そうという地元の努力で、木造で架けかえられました。そして現在の錦帯橋は 2001 年に江戸時代の技術を生かして、架けかえられました。

現在私たちがこの素晴らしい光景に感動できるのは地元の方々の熱意によるものです。

FROM EDITORS

アマゾンが新サービス Prime Reading を始めましたね。
普段 kindle で本や雑誌を読んでいるので、サービス拡充はうれしい限りです。(関野)

この秋のアニメは粒ぞろいですね。録画を消化するのが追い付きません！来年の『銀河英雄伝説』も楽しみ……。 (橋本)

No.
05

ELPA
Vision

2017 年 11 月 10 日発行
編集人：白戸治久 編集協力：ユーフォーブックス 発行人：金谷憲
発行所：特定非営利活動法人 (NPO) 英語運用能力評価協会 (ELPA)
〒102-0074 東京都千代田区九段南 4-3-4 大江ビル 1 階
TEL:03-3230-0571 FAX:03-3230-0572